

2021年上半期(1～6月期)の出版市場を発表

紙＋電子は8.6%増の8,632億円。紙が4.2%増、電子が24.1%増

出版業界の調査・研究機関である（公社）全国出版協会・出版科学研究所（所在地：東京都新宿区、理事長：浅野純次）は、2021年上半期（1～6月期累計）の出版市場規模を『出版月報』7月号（7月26日発売）で発表しました。

紙と電子を合算した出版市場（推定販売金額）は、前年同期比8.6%増の8,632億円。紙の市場が同4.2%増、電子出版が同24.1%増と2割超の伸びを示しました。出版市場全体における電子出版の占有率は25.3%となり、年々上昇し続けています。

□ 紙市場は6,445億円、コミックスは二桁増を維持

2021年上半期の紙の出版物（書籍・雑誌合計）の推定販売金額は前年同期比4.2%増の6,445億円と大きく伸長しました。内訳は、書籍が同4.8%増の3,686億円、雑誌が同3.5%増の2,759億円。昨年からの新型コロナウイルス感染拡大の影響で、実勢を捉えにくいですが、19年1～6月期との比較でも1.2%増とプラスで推移しており、増加傾向にあります。

書籍は、文芸書、児童書、ビジネス書、新書などの主要ジャンルがプラスに推移しました。一方で、前年に学校休校の影響で特需となった学参や既刊本にヒットが目立った文庫本はマイナスとなりました。

雑誌は、月刊誌（コミックス、ムック含む）が同5.7%増の2,331億円、週刊誌は同7.2%減の428億円。月刊誌のうち、月刊定期誌とムックがともに約2%減、コミックスが約16%増。コミックスは前年に大ブレイクした『鬼滅の刃』（集英社）の勢いこそ落ち着きましたが、『呪術廻戦』（集英社）、『東京卍リベンジャーズ』（講談社）などが牽引し、二桁増をキープしました。定期誌は、前年の上半期に約250誌が発行延期・中止となったことと比べると、全体では微減となりました。しかし多くの雑誌は1誌あたりの部数が減少し、厳しい状況が続いています。

□ 電子出版市場は24.1%増の2,187億円、コミック、書籍ともに2割増

2021年上半期の電子出版市場は前年同期比24.1%増の2,187億円。内訳は電子コミックが同25.9%増の1,903億円、電子書籍が同20.9%増の231億円、電子雑誌が同11.7%減の53億円でした。

コミック、書籍ともに前年、巣ごもり需要によって拡大したユーザーが定着し、さらに新規ユーザーを獲得したことで市場成長が続いています。特に電子ストア「DMM ブックス」が実施したキャンペーンによる販売効果が顕著に表れました。雑誌は、読み放題サービスの会員数の減少が続き、二桁減となりました。

■ 2021年上半期 紙と電子の出版物推定販売金額

年		2020年1～6月期 (億円)	2021年1～6月期		占有率 (%)
			(億円)	前年同期比 (%)	
紙	書籍	3,517	3,686	104.8	42.7
	雑誌	2,667	2,759	103.5	32.0
	紙合計	6,183	6,445	104.2	74.7
電子	電子コミック	1,511	1,903	125.9	22.0
	電子書籍	191	231	120.9	2.7
	電子雑誌	60	53	88.3	0.6
	電子合計	1,762	2,187	124.1	25.3
紙＋電子	紙＋電子合計	7,945	8,632	108.6	100.0

※占有率の合計は四捨五入の関係で一致しない ※電子コミック誌は電子コミックに含む

＜本件に関するお問い合わせ＞ ※本レポートの詳細は、『出版月報』2021年7月号（頒価2,200円）に掲載しています。

公益社団法人 全国出版協会・出版科学研究所 担当：久保、水野

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 TEL 03-3269-1379 FAX 03-3266-1855 <https://shuppankagaku.com>